

令和元年度

事務事業評価表 A (平成30年度の実績評価)

記入年月日
平成 31 年 4 月 10 日

Table with columns for 事務事業名 (Project Name), 事業区分 (Project Category), 担当 (Responsible Party), 政策体系 (Policy Framework), 予算科目 (Budget Item), and 法令根拠 (Legal Basis). Includes details for '塚田伝奨学資金支給事業'.

(Do) 1. 事務事業の現状把握 (その1)

Table with 2 columns: ①事務事業の概要 (Project Overview) and ②担当が行う業務の内容・やり方・手順 (Task Description/Method/Procedure). Includes details about scholarship criteria and procedures.

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table with columns for ①手段 (Method), ②対象 (Target), ③意図 (Intent), and ④-⑥各指標 (Indicators). Includes data for activity indicators like '選考委員会の開催数' and '奨学資金を支給された人数'.

(3) 投入量 (事業費) の推移

Table showing input volume (expenses) by source (国庫支出金, 県支出金, etc.) and personnel (正規職員従事人数). Includes a '期間限定総投入量' column.

Table comparing 30年度事業費実績 (FY30 Actual) and 01年度事業費予算 (FY01 Budget) for items like 01 報酬 (Fees) and 20 扶助費 (Subsidies).

(4) 当該年度の実施内容

Table for implementation content for FY01, FY02, and FY03. Includes a note: '※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する' and a list of activities like '主要事業', '市長マニフェスト', etc.

事務事業名	塚田伝奨学資金支給事業	事務事業No.	20102000164	所属課	学校教育課
-------	-------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 昭和52年真壁町大字源法寺在住の塚田伝氏より、真壁町が2,005万円の教育寄付を受ける。以降塚田伝奨学資金支給条例を制定し、基金の運用を図った。 昭和52年から平成24年まで134名の奨学生に授業料として奨学金を支給。支給金額は30,452,100円。2,005万円の基金の取り崩しをせず利子の運用のみで対応。18年度からは基金の取り崩しを行い、奨学資金に充てている。平成22年度県条例改正に伴い授業料無料化になったため、学用品等として授業料相当額を支給。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか? 受給した奨学生及び保護者からは大変感謝されている。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容 現状維持

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
目的妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 就学困難な学生に授業料相当の奨学金を支給することは、教育体制の充実に結びつく。
目的妥当性	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 財源は塚田伝奨学資金によるものであり、税金の投入ではない。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない 塚田伝奨学資金支給条例に基づき対象を決定している。
有効性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 優秀な人材が経済的理由で就学困難になる恐れがある。
有効性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) <input type="checkbox"/> 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業はない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 塚田伝奨学資金支給条例に基づき対象を決定しているため、削減の余地はない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 塚田伝奨学資金支給条例に基づき対象を決定している。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 奨学生から学校生活の様子や近況を伝えた手紙等が塚田氏のもとへ送られている。
(3) 今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) コスト削減 維持 増加 成果向上 維持 低下
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策	(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 ⑨ コスト削減優先度評価結果 -

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価 課長確認後の評価 A A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合) 確認欄 確認
--	---